

ドイツ語（初級 A） 第 6 回 名詞の複数形、特殊変化の名詞

範囲：教科書 S. 17-18（CD トラック 18-19）

《今回の基本例文》

13. Die Vögel singen und die Bäume blühen. (CD18-1)

鳥たちは歌い、花々は咲く。

[**名詞の複数形**]

14. Wir begegnen einem Studenten. (CD19-1)

私たちはある学生に出会う。

[**男性弱変化名詞、(3 格目的語をとる動詞)**]

.....
: 授業第 5 回補足練習問題の解答

: 1. Deutsch lerne ich.

: 2. Studentin bin ich.

: 3. Jetzt wohnt Peter in Berlin.

: 4. In Berlin wohnt Peter jetzt.

: 5. Übt Hanna heute zwei Stunden Klavier?

: 6. Wer übt heute zwei Stunden Klavier?

: 7. Wann übt Hanna zwei Stunden Klavier?

: 8. Was übt Hanna heute zwei Stunden?

: 9. Wem gehört der Tisch?

: * wem、つまり 3 格の疑問代名詞を使うよう指示があるので、これまで何度も登
: 場した 3 格目的語をとる動詞 gehören を用いればよい。教科書 S. 13 の Übung 3 も
: 参照。

: 10. Wem gehört das Haus.

: * 同上。
:

教科書第 3 課 B. 名詞の複数形 (S. 17)

〈名詞の複数形の基本パターンについて〉 (補足)

◇ 原則として単数形の語尾に-s をつければ複数形になる英語やフランス語と異なって、ドイツ語には単数形から複数形をつくる時の語尾が 5 種類ある。さらに、名詞の幹母音が変音する場合としない場合がある。

◇ どの名詞がどのパターンで複数形をつくるのかについては、性別と同じく、語尾で判断できる場合がある (今回の配付資料 2「名詞の語尾と複数形の関係」も参照)。

- ◇ 名詞の複数形は、必ず辞書に記載されている (これも後述)。
- ◇ 無語尾型は、単数形に語尾を加えずに複数形をつくるパターンで、幹母音が変音するものとしないものがある。男性名詞と中性名詞に多い傾向。
- ・ **無語尾型 + 変音なし** (単数形と複数形がまったく同じ)
(例) der Onkel → die Onkel, der Wagen → die Wagen,
der Himmel → die Himmel, der Lehrer → die Lehrer,
das Zimmer → die Zimmer, das Fenster → die Fenster,
das Mädchen → die Mädchen
 - ・ **無語尾型 + 変音あり**
(例) die Mutter → die Mütter, der Vater → die Väter, die Tochter → die Töchter
- ◇ E 型は、単数形に語尾-e を加えて複数形をつくるパターンで、幹母音が変音するものとしないものがある。男性名詞に多い傾向。
- ・ **E 型 + 変音なし**
(例) das Jahr → die Jahre, der Brief → die Briefe, der Tisch → die Tische,
der Freund → die Freunde
 - ・ **E 型 + 変音あり**
(例) der Arzt → die Ärzte, der Baum → die Bäume, die Stadt → die Städte,
der Hut → die Hüte, der Stock → die Stöcke
- ◇ ER 型は、単数形に語尾-er を加えて複数形をつくり、なおかつ幹母音が必ず変音するパターンである。ただし、幹母音が i や e のときはもちろん変音できない。中性名詞に多い傾向。
- (例) das Haus → die Häuser, das Buch → die Bücher, das Wort → die Wörter,
das Kind → die Kinder, der Mann → die Männer
- ◇ (E)N 型は、単数形に語尾-en か-n を加えて複数形をつくり、幹母音は絶対に変音しないパターンである。女性名詞に多い傾向。
- ・ **N 型** : -e, -ie, -er, -el などアクセントのない語尾の名詞
(例) das Auge → die Augen, die Tasche → die Taschen,
die Familie → die Familien, die Schwester → die Schwestern,
die Insel → die Inseln
 - ・ **EN 型** : 上記以外の名詞
(例) die Frau → die Frauen, die Wohnung → die Wohnungen,
die Wahrheit → die Wahrheiten
- ◇ S 型は、英語などと同じく単数形に語尾-s を加えて複数形をつくり、幹母音は絶対に変音しないパターンである。基本的に外来語のみ。
- (例) das Auto → die Autos, das Sofa → die Sofas, das Kino → die Kinos

◇ 単数形→複数形の公式をまとめると以下の通り。

パターン	変音	例		
無語尾型	×	der Onkel	→	die Onkel
	○	die Mutter	→	die Mütter
E 型	×	das Jahr	→	die Jahre
	○	der Arzt	→	die Ärzte
ER 型	○（可能なら）	das Haus	→	die Häuser
(E)N 型	×	die Auge	→	die Augen
		die Frau	→	die Frauen
S 型	×	Das Auto	→	die Autos

教科書 Übung 1

1～8. 辞書で名詞の複数形を確認する方法については、本資料 S.5 の〈ドイツ語の名詞を辞書で引くときの見方〉を参照。

教科書 Übung 2

1～4. 名詞が複数形になると動詞も変化することに注意。

教科書第 3 課 C. 特殊変化の名詞

〈規則変化しない名詞について〉（補足）

◇ 教科書第 2 課で見た通り、一般に格変化を行うのは冠詞など名詞にくっつく要素であり、名詞自体はほとんど変化しなかった（男性 2 格や中性 2 格の語尾-s、複数 3 格の語尾-n を除く）。ただし、男性名詞と一部の中性名詞のなかには、不規則な変化をするものがいくつかある。

◇ 規則変化の場合、男性名詞および中性名詞の単数 2 格と複数 3 格を除いては、名詞自体が変化することがなかった（⇒教科書第 2 課、授業第 4 回）。ここで学ぶ特殊変化の名詞では、ほぼすべての数と格が単数 1 格と異なるかたちをとる。

教科書 1 男性弱変化名詞

◇ 男性弱変化名詞とは、単数 1 格以外のすべての数と格において-en という語尾が現れる男性名詞である。

* -en の語尾が現れる変化を「弱変化 (schwache Beugung)」と呼ぶ (J・グリムによる)。形容詞にも弱変化が存在する。（⇒教科書第 10 課）

◇ 男性弱変化名詞は、主に次の 3 パターンに分けられる（授業第 4 回配付資料 2「名詞の性別の見分け方」も参照）。

- ・ **-e の語尾を持つ男性名詞**。主に人や動物を表す。

(例) Junge *m.* 少年、Affe *m.* 猿、Löwe *m.* ライオン、Jude *m.* ユダヤ人、
Chinese *m.* 中国人

* ただし、Käse *m.* チーズのみ例外的に規則変化。それ以外の -e の語尾をとる男性名詞は男性弱変化名詞ないし Name 型 (後述)。

- ・ **-ent, -ant, -at, -ist の語尾を持つ外来語系の男性名詞**。主に職業などを表す。これらの名詞はすべて語尾にアクセントを持つ。

(例) Student *m.* 学生、Präsident *m.* 大統領、Soldat *m.* 兵士、
Astronaut *m.* 宇宙飛行士、Kapitalist *m.* 資本家、Kommunist *m.* 共産主義者

- ・ **そのほか**、語尾に特徴がないもの。

(例) Mensch *m.* 人間、Fürst *m.* 王侯、Narr *m.* 馬鹿者、Bauer *m.* 農民

Mensch の場合の変化表は以下の通り。

	Mensch	
1 格	der Mensch	die Menschen
2 格	des Menschen	der Menschen
3 格	dem Menschen	den Menschen
4 格	den Menschen	die Menschen

教科書 2 ほかの特殊変化名詞 (S. 18)

◇ 一部の名詞には、男性弱変化名詞と別の不規則変化をするものが若干ある。

◇ **Name (m. 名前) 型**は、単数 2 格に -ens という語尾が現れ、単数 3 格以下は男性弱変化名詞と同じ -en の語尾をとる。変化表は以下の通り。

	Name	
1 格	der Name	die Namen
2 格	des Namens	der Namen
3 格	dem Namen	den Namen
4 格	den Namen	die Namen

(例) Friede *m.* 平和、Gedanke *m.* 思想、Glaube *m.* 信仰、Wille *m.* 意志

◇ **Herr (m. ~氏、紳士、主君)**は、単数 2 格以下は -n の語尾、複数形はすべて -en の語尾をとる。この 1 語のみの変化形。変化表は以下の通り。

	Herr	
1 格	der Herr	die Herren
2 格	des Herrn	der Herren
3 格	dem Herrn	den Herren
4 格	den Herrn	die Herren

* 手紙などでの男性への宛名では、「~様へ」の意味で単数 3 格の Herrn を用いる。

- ◇ Herz (n. 心) は、中性名詞であるが、Name 型の男性名詞に近い変化をする。ただし、単数 4 格は単数 1 格と同じ。

	Herz	
1 格	das Herz	die Herzen
2 格	des Herzens	der Herzen
3 格	dem Herzen	den Herzen
4 格	das Herz	die Herzen

〈ドイツ語の名詞を辞書で引くときの見方〉 (補足)

- ◇ 基本的に、辞書の項目となっているのは名詞の単数 1 格である。
- ◇ ドイツ語の名詞を辞書で引くと、発音記号や性別などの情報と並んで、「-s/-」のような記号が必ず書かれている。これは、「単数 2 格/複数 1 格」のことを意味する。ドイツ語の名詞は、単数 2 格と複数 1 格がわかればすべての変化形を復元できるからである。

(例) Lehrer : 「-s/-」 → 単数 2 格が-s (Lehrers) となる規則変化名詞で、複数形は無語尾型の変音なし (Lehrer)

Vater : 「-s/¨」 → 単数 2 格が-s (Vaters) となる規則変化名詞で、複数形は無語尾型の変音あり (Väter)

Buch : 「-(e)s/¨er」 → 単数 2 格が-s か-es (Buchs か Buches) となる規則変化名詞で、複数形は er 型の変音あり (Bücher)

Junge : 「-n/-n」 → 単数 2 格が-n (Jungen) となる男性弱変化名詞で、複数形は(E)N 型 (Jungen)

* 男性弱変化名詞以外の特殊変化名詞は、主な変化形がみな書いてあることが多い。

- ◇ 実際の辞書への記載例は以下のようにになっている¹⁾。この辞書のように、変音ありの複数 1 格については略記ではなくそのまま書かれていることもある。

Satz [zʌts] ④ -es/Sätze [zʌtsə] ⑤ **Sätz-chen** [zʌtsçən], **Sätz-lein** [ˌlɛɪn] ⑥ -s/-) **1 a** 【言】(テキスト・談話の最小の単位としての)文、文章; (一文からなる)発話, 発言; **Hauptsatz** 主文 | **Nebensatz** 副文 | ein selbständiger (abhängiger) ~ 独立(従属)文 | ein einfacher (zusammengesetzter) ~ 単一(複合)文 | ein eingeschobener ~ 挿入文 | ein eingliedriger (zweigliedriger) ~ 一項((主語・述語からなる)二項)文 | ein erweiterter ~ (構造上必要不可欠な成分以外の語・句を付け加えた)拡張文 | ein untergeordneter (nebeneordnet) ~ 従属(並列)文 | ein verschachtelter ~ (副文がいくつもあるような)箱入り文 | ein vollständiger ~ (定動詞のぞなわった)完全な文 | der voranstehende (nachfolgende) ~ 先行(後続)文 | zusammengezogene **Sätze** (共通成分を省略した)縮約文 ||【主語として】Dieser ~ ist falsch. この文は間違っている | Dieser ~ ist mir nur so herausgerutscht. これはつい口がすべって言ってしまったことだ ||【4 格で】Sätze bilden (konstruieren) 文を作る(構成する) | einen ~ korrigie-

¹⁾ 『独和大辞典コンパクト版 第 2 版』小学館、1999 年。

各自、自分の使っている辞書で、名詞がどのように記載されているか確認しておこう。

教科書 Übung 1

1. begegnen（～に出会う）は、これまで登場した *gehören* や *helfen* と同じく、典型的な 3 格目的語をとる動詞。それゆえ、他動詞ではなく自動詞になる。

教科書コラム ss と ß の使い分け

◇ この使い分けは**新正書法**（1998 年～）のもので、**旧正書法**時代の文章では異なる綴りが現れるので注意。もちろん、現在の学習者は新正書法を覚えておけばよい

* 旧正書法では、「短母音のあと、かつ母音の前」のみ *ss*、それ以外はすべて *ß* だった。このため、教科書の例でいえば、*küssen* に対して *er küßt*、「川」は *Fluß* と書かれていた。

** 授業第 1 回でなるべく最近の辞書を買う必要があると説明した理由の一つは、初学者は新正書法だけを学習してほしいからである。ただし、古い本、辞書、参考書では旧正書法に出くわすこともあるので、もう少し本格的にドイツ語を勉強するなら、そちらのことも知っておいた方がよいのも事実。

◇ スイスでの „Strasse“ 表記例（ドイツでは „Straße“）。写真はクロイツリンゲン（Kreuzlingen）で撮影。



連絡先など

教員のメールアドレス：tokan@nifty.com 教員のウェブサイト：<http://hasegawa.la.coocan.jp/>

授業のウェブサイト（進捗表示、配付資料あり）：<http://hasegawa.la.coocan.jp/lecture/>